

13

総合問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

□(2) — 線①「みる」の(A)活用の種類と(B)活用形を、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|------|----------|----------|---------|
| □(A) | ア 五段活用 | イ 上一段活用 | ウ 下一段活用 |
| | エ カ行変格活用 | オ サ行変格活用 | |
| □(B) | ア 未然形 | イ 連用形 | ウ 終止形 |
| | エ 連体形 | オ 仮定形 | カ 命令形 |

□(3) — 線②「無造作」のように、上に「無」がついて三字熟語になるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|------|------|--------------------------|
| ア 関心 | イ 完成 | <input type="checkbox"/> |
| ウ 常識 | エ 完全 | <input type="checkbox"/> |

□(4) — 線③「言っている」の主語にあたることばを、本文中から一文節の形で書き抜いて答えなさい。

□(5) — 線④「みんなの願い」とありますが、これをかなえるために、「彼」は何をすることになりましたか。それをできる限り具体的にまとめた次の①・②の文の に入る適切なことばを、それぞれ書いて答えなさい。

□① おおるりがもつと綺麗な声で鳴くように、 ことにした。

□② 病人たちがおおるりの鳴き声をもうすこし近くで聴くことができるように、 ことにした。

〈三浦哲郎「おおるり」より〉

□(1) — 線(A)～(H)の漢字は読み方をひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

(G)	(E)	(C)	(A)
(H)	(F)	(D)	(B)

□(6) — 線⑤「彼はちょっと悪くない気がした」からは、「彼」のどのような気持ちを読み取ることができませんか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 病人たちのために奔走した付添婦の人の優しさ・思いやりの深さに好感を抱く気持ち。

イ 自分のおおりの声を楽しみにしている人の存在を知って、うれしがる気持ち。

ウ 思いがけないところで自分が人の役に立っていたことを知らされ、満足する気持ち。

エ 自分と同様におおりを愛しているという病人たちに対して親しみを覚える気持ち。

□(7) — 線⑥「自分がいつになくお喋りになっている」とありますが、このような「彼」の様子についての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 付添婦の人に心を魅かれていて、懸命に自分をアピールしようとしている。

イ 付添婦の人の頼みを全面的には受け入れることができず、苦しい言い訳をしている。

ウ 付添婦の人の頼みをきくことにすっかり乗り気で、得意げになって話している。

エ 付添婦の人の願いをかなえるのがいかに大変であるかを、それとなく示そうとしている。

□(8) — 線⑦「こっそり飼う気があるなら」とありますが、付添婦の人は、なぜおおりを「こっそり」飼わなければならぬのですか。その理由を書いて答えなさい。

□(9) — 線⑧「但し、来年の春ですよ」とありますが、これを聞いた付添婦の人の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 鳥を飼う自分を想像して、わくわくする気持ち。

イ 来年の春ではおそいと思い、がっかりする気持ち。

ウ 来年の春まで待つことを考え、うんざりする気持ち。

エ 今すぐ飼うのではないことを知り、ほっとする気持ち。

□(10) — 線⑨「顔を力ませるようにして、やっと笑った」から読み取れることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「彼」のことを意識して、緊張していること。

イ 無理をして気丈に振る舞おうとしていること。

ウ 「彼」に対して、素直に心が開けないでいること。

エ 気持ちが吹っ切れ、不安から解放されていること。

□(11) — 線⑩「日課が一つ減ったと思えばいい。彼は自分にそう言い聞かせた」から読み取れる「彼」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 密かに思いを寄せていた女性が、自分のそばから去っていったことを悲しむ気持ち。

イ 日課が減ったことを喜びながらも、毎朝の習慣がこれから変わること

ウ おおりの声を楽しみにしてくれていた人が亡くなったことを、寂しく残念に思う気持ち。

エ 自慢のおおりの声を聞いていたのが実は一人だけだったことに気づき、悔しく思う気持ち。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

京極太政大臣宗輔きぎょくたいていじんむねすけ公は、蜂はちをいくらともなく飼かまひ給たまひて、何丸なにまる・彼丸かまると名を付けて給たまひければ、召めしにしたがひて、*かきこ恪勤かくきんの者などを*かんどう勘当かんどうし給たまひけるには、「何丸なにまる、*まひし某刺まひししてこ。」と①のたまひければ、②そのままにぞふるまひける。*しご出仕しごの時、*おとこ車のうらうへの*おとこ物見おとこにはらめきけるを、「とどまれ」とのたまひければ、aとどまりけり。世には蜂飼はちかひの大臣おとことぞ申しける。5
不思議ふしぎの徳とくおほしける人なり。漢かんの*しやし蕭芝しやしが雉きをしたがへたりけるにことならず。この殿の蜂はちを飼かまひ給たまふを、世の人、無益むえきの事といひけるほどに、五月ごのころ、*とばとの鳥羽殿とばとのにて、蜂はちの巢のにはかおんまえに落ちて、*おんまえ御前おんまえに多く飛ひび散ちりたりければ、人々ひとびと③刺しされじとて逃げ騒さわぎけるに、*しご相国しご、御前おんまえに枇び杷わ④のありけるを、一房ひとつぶ取とりて、琴爪ことづめにて皮かわをむきて、さしあげられたりければ、蜂はちのある限り取り付つけきて散ちらざりけるを、付つけながら、供人ともひとを召よびて、*やおら*たびてけり。*いん院いんは、「④かしこくぞ宗輔むねすけが候まをひて」と仰おほせせられて、御感ごまかんありけり。

(注) 恪勤かくきんの者もの親王しんおう、大臣だいじんに仕つかえた侍さむらい。

勘当かんどう 罰ばつすること。

某刺まひししてこ 誰たれそれ(人名じんめいをわざとばかした表現ひょうげん)を刺ししてこい。

出仕しご 宮中みやちゆうの勤きんめに出でること。

車のうらうへ 車の左右しやうざう。

物見おとこ 車の窓まど。

蕭芝しやし 中国ちゆうごくの前漢ぜんかんの時代じだいの人ひと。いつも数十羽すんじゆうの雉きが従したがっていた。

鳥羽殿とばとの 山城やましろの国紀伊郡くにきいぐん(今の京都きょうと)鳥羽とばにあった鳥羽上皇とばのかみの離宮りきゆう。

御前おんまえ 鳥羽上皇とばのかみのいらっしゃる前まへあたり。

相国しご 宗輔むねすけのこと。

たびてけり お与おまえになつた。

院いん 鳥羽上皇とばのかみのこと。

□(1) 線a・bの主語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 宗輔 イ 鳥羽上皇 ウ 世の人

エ 御前にいた人 オ 蜂 カ 供人

a	
b	

□(2) 線⑦⑧⑨「の」の中から用法が異なるものを二つ選び、記号で答えなさい。

□(3) 線①「のたまひければ」は敬語表現ですが、この場合の敬語の種類を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 尊敬語 イ 謙譲語 ウ 丁寧語

□(4) 線②「そのままにぞふるまひける」の意味として最も適切なものを選択し、記号で答えなさい。

ア その間に止まっていた。

イ 言った通りに飛んでいった。

ウ 言われた通り刺した。

エ 同じように罰を与えた。

□(5) 線③「刺されじ」の口語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 刺されない イ 刺されまい

ウ 刺されよう エ 刺された

□(6) 線④「かしこくぞ宗輔が候ひて」と言った鳥羽上皇の気持ちとして最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 疑問 イ 失望

ウ 感嘆 エ 得意

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

先生は①真白なりンネルの着物につつまれた体を窓からのび出させて、
 葡萄の一房を②もぎ取って、真白い左の手の上に粉のふいた紫色の房を乗せ
 て、③細長い銀色の鋏④で真中からぷつりと二つに切って、ジムと⑤僕とに
 下さい⑥ました。真白い手の平に紫色の葡萄の粒が重って乗っていた⑦その
 美しさを僕は今でも⑧はつきりと思ひ出す⑨ことが出来ます。

〈有島武郎「一房の葡萄」より〉

5

□(1) — 線①〜⑨のことばの品詞名を、それぞれ次から選び、記号で答えな
 さい。

- ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞
 オ 副詞 カ 連体詞 キ 接続詞 ク 助詞
 ケ 助動詞 コ 感動詞

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
	⑤

□(2) (1)の選択肢ア〜コの中から、①体言にあたる品詞を一つ、②用言にあた
 る品詞を三つ、③付属語にあたる品詞を二つ、それぞれ選び、記号で答え
 なさい。

①					
②					
③					

5 次のそれぞれのことわざ、故事成語に意味が最も近いものを、それぞれあ
 とから選び、記号で答えなさい。

- (1) 塞翁が馬 □(2) 他山の石 □(3) 糠に釘
 □(4) 虻蜂捕らず □(5) 麻につるる蓬 □(6) 紺屋の白袴
 □(7) 五十歩百歩 □(8) 急がば回れ
- ア 人は善悪の友による イ 人のふり見て我がふり直せ
 ウ 禍福は糾える縄の如し エ 一石二鳥
 オ 豆腐に鋏 カ 二兎を追う者は一兎をも得ず
 キ 医者の不養生 ク 大同小異
 ケ 急いで事は仕損じる

(1)							
(2)							
(3)							
(4)							
(5)							
(6)							
(7)							
(8)							